

## 令和元年度 「石狩市教育委員会外部評価委員会」 会議録

1. 日 時 令和元年10月1日(火) 15:00~17:00

2. 会 場 石狩市役所 403会議室

### 3. 出席委員

職名	氏 名	役 職 等	備 考
委員長	伊井 義人	藤女子大学 人間生活学部人間生活学科 教授	
副委員長	鈴木 茂	元教職員 いしかり市民カレッジ	
委員	向田 久美	一般社団法人 アクトスポーツプロジェクト 理事	

### 事務局 (12名)

生涯学習部長 佐々木 隆哉  
生涯学習部次長(教育指導担当) 佐藤 辰彦  
生涯学習部次長(社会教育担当) 兼 図書館長 東 信也  
生涯学習部参事(指導担当) 山田 潮  
総務企画課長 安崎 克仁  
学校教育課長 佐々木 宏嘉  
教育支援センター長 開発 克久  
社会教育課長 兼 公民館長 伊藤 英司  
学校給食センター長 近藤 和磨  
文化財課長 工藤 義衛  
総務企画課主幹 松永 実  
総務企画課総務企画担当主査 古屋 昇一

4. 傍聴者 1名

### 5. 議事要旨

～ 開会 ～ 15:00

生涯学習部長挨拶

**伊井委員長**

【進め方の確認】

大項目ごとに、また、全体に渡るものは最後に、皆さまから事前に頂いている「ご意見など」を伺いながら、「点検評価報告書に記載する意見」を決めます。

事務局が事前に集約した各委員からの意見等の資料をもとに進め、事務局からの回答を参考に、意見として報告書へ記載するか、質問・感想等にとどめるかの判断を行っていくこととします。

本委員会は審議会ですので、「点検評価報告書に記載する意見」でない様々なご発言も、議事録に残ります。

また、「点検評価報告書に記載する意見」や審議会での発言については、すぐに対応できないものについても、翌年度以降の検討対象として、教育委員会で常に、受けとめていただいているとのことです。

1. 教育委員会の活動状況について

【事前集約した意見】

No.	委員	意見等
1	伊井	たびたび議論されている、厚田地区での学校統合に関するコミュニティ・スクールの導入に関しては、その目標・目的に合致した教職員の配置が重要となるかと思いますが、教育委員会としてのお考えをお聞かせください。

**伊井委員長**

たびたび議論されている、厚田地区での学校統合に関するコミュニティ・スクールの導入に関しては、その目標・目的に合致した教職員の配置が重要となるかと思いますが、教育委員会としてのお考えをお聞かせください。

**安崎総務企画課長**

No.1については、コミュニティ・スクールの導入による教員数の増加はありませんが、厚田に設置する義務教育学校では、前期課程の6年間が小学校、後期課程の3年間が中学校となり、教員の数はそれぞれの定数が配置されますが、事務職員や養護教諭を一般教員に置き換えることが可能とされていることや、教員加配のメニューもありますので、複式の教育指導のデメリットを解消するための教科担任制や乗り入れ授業などの実現のために道教委と協議を進めたいと考えております。また、小中一貫教育の視点で新たな取組にトライしていきませんが、取組を継続するためにも働き方改革を意識しながら教員の負担が過大とならないような配慮をしてまいります。

**伊井委員長**

教育委員会の活動というところまでのご質問としましたが、この後の学校づくりの項目で他の委員からもご意見いただいておりますので、そちらでも議論したいと思いません。

**2. 施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性～**

**【重点テーマ1 自ら学ぶ意欲を育てる教育】**

**施策（大項目）1 生きる力につながる確かな学力を育む教育の充実**

**【事前に集約した意見】**

No.	委員	意見等
2	鈴木	・学習障害要因を把握・分析し、有効な方策を見出し、学習指導改善を図る取組ができるよう一層の支援を望みます。
3	鈴木	・幼保小の連携による切れ目のない子育て支援の一層の充実を望みます。
4	伊井	・南線小、緑苑台小で得た知見をぜひ、他の小学校での実践に活かせるシステムづくりを望みます。

**鈴木副委員長**

子どもたちの学力低下が問題となっていますが、学習を阻害している要因は、一人一人の違いがあるので、単に点数で評価するのは難しいことです。その中で要因を見つけて学習に繋げていくという現場の苦労があるかと思い、このような意見としました。

合わせて、幼保小の連携の関係で幼稚園、保育園、認定こども園でそれぞれ学ぶことに違いが出てくることもありますので、それを含めてきめ細やかな視点で取り組んで欲しいと思い意見としました。

**伊井委員長**

南線小、緑苑台小で先進的な実践をしているところで得た知見をぜひ、他の小学校での実践に波及していくようなシステムづくりをなお一層お願いしたいと思います。

**山田生涯学習部参事**

No.2については、全国学力・学習状況調査、児童生徒質問紙などから学習障害要因を探ると、家庭学習時間が全国平均よりも少ない傾向があり、また、テレビの視聴、ゲーム使用頻度が多い状況です。これまでも取り組んでいる「生活リズムチェックシート」の積極的な推進、小中連携で家庭学習強化週間の設定などの方策を継続させることで改善を図ってまいります。

**安崎総務企画課長**

No.3については、認定こども園や幼稚園、保育園では、遊びを通じての学びを行っていて、その学びを主に小学校の生活科の中で活かし、繋げていくというカリキュラムがあり、幼児教育から小学校教育への移行をスムーズに行うために、それぞれの幼児教育

課程でどのようなことを重点的に取り組んでいたかなどを聞き取りし、遊びの学びから国語や算数など各教科の学びに繋げる工夫を行っているので、引き続き園との連携を深めてまいります。また、子育て支援では、子育ての相談機関として保健福祉部で「子育てコンシェルジュ」を2名配置し、平成30年度では5,000件を超える相談があったと聞いており、引き続き配置してまいります。

**佐々木学校教育課長**

No.4については、エキスパートサポーターを配置した南線小、緑苑台小で「授業の内容がよく分かる」と回答した児童が増加していることから、今年度は新たに紅南小に1名配置し、学級経営や学習指導、生徒指導などに対し実践的な指導助言を行っています。今後も配置を続けてまいります。また、知見の波及というところで、若手教員の育成の部分で、今年度、若手教員の不安や指導面での悩みを中堅教員やベテラン教員がアドバイスする「メンター研修」を市内の小中学校の教員を対象として実施し他校への普及啓発に努めており、今後も引き続き取り組んでまいります。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- 一人一人の違いを意識して学習障害要因を把握・分析し、有効な方策を見出し、学習指導改善を図る取組ができるよう一層の支援を望む。
- 幼保小の連携による校種や部局を越えた切れ目のない子育て支援の一層の充実を望む。
- メンター研修制度などを通して、南線小・緑苑台小で得た知見を、他の小学校での実践に生かせる体制づくりを望む。

**施策（大項目）2 一人ひとりを大切にした教育活動の充実**

【事前に集約した意見】

No.	委員	意見等
5	鈴木	・特別支援教育について共通理解を深め、家庭・教育・福祉等の連携による体制づくりを望みます。
6	伊井	・特別支援教育の分野については、既に十分なシステム構築が進んでいる状況だと認識しています。それらの活用の成果・効果を評価する時期に来ており、それに伴う「分析評価」を次年度以降、望みます。

**鈴木副委員長**

特別支援学級の児童生徒や普通学級の中で特に支援が必要な児童生徒など、いろいろなケースがあると思います。一人一人への共通理解を深め、家庭・教育・福祉等の連携した特別支援教育を進めて欲しいと思い意見としました。

**伊井委員長**

特別支援教育の分野については、既に十分なシステム構築が進んでいる状況だと報

告書の記載でも伝わってきます。それらの活用の成果・効果を評価する時期に来てい  
ると感じておりましたので、それに伴う「分析評価」を次年度以降は一步進めていた  
だきたいと思えます。

**開発教育支援センター長**

No.5については、支援の必要な子どもの情報は、福祉部局（子ども相談センター、  
こども発達支援センター、石狩市相談支援センター、保健師等）や認定こども園・保  
育所等と共有し取り進めており、現状の取組状況の推移を見守ってまいります。

No.6については、新就学、在学児童生徒、中学校への進学等の段階ごとに分けなが  
ら、それぞれの取組について検証・分析評価が行えるよう検討してまいります。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

No.6については、全体を通しての意見に含めることとする。

○特別支援教育について共通理解を深め、家庭・教育・福祉等の連携による体制づくりを  
望む。

**施策（大項目）3 独自性が発揮できる魅力ある学校づくりの推進**

**【事前に集約した意見】**

No.	委員	意見等
7	鈴木	・魅力ある学校（学級・授業）づくりに資する主体的・実践的・組織的研 修意識が醸成されるよう一層の支援を望みます。
8	鈴木	・地域の学校としての意識をもって地域住民が参画しやすい体制づくりを 今後も積極的に推進されるよう望みます。
9	向田	・中学校部活動種目の減少が加速し、団体競技は特に厳しい状況。学校単 位の指導者の問題だけでなく、根本的に石狩市内の中学部活動の見直しを 行う必要があるのではないか。
10	伊井	・「学校力向上に関する総合実践事業」を通して、花川地区そして市内小中 学校の連携・成果の普及への取組は、どのように進められていく予定でし ょうか。

**鈴木副委員長**

現在の学校の状況では、研修項目として取り組む分野が多岐にわたっていると思  
うので、石狩管内の研修の取組などと合わせて、研修を推進していくという雰囲気を作  
って組織的に意識の醸成を図っていただきたいと思意見としました。

**山田生涯学習部参事**

No.7については、長期休業中に実施している教育委員会主催の研修、学校力向上事業  
（地域連携セミナー研修）を実施しています。市内4校（花川南小、中、南線小、樽川  
中）を拠点校とした授業改善等支援事業による授業改善研修、市内7校の主幹教諭会議

といった研修を通して、学校づくりに資する教員の資質・能力向上に努めております。

#### 鈴木副委員長

学校と地域の関係が薄れてきていると言われている中で、石狩市では地域と密着した取組を進めている学校も多いと感じています。これから厚田で新しい学校ができるので、これを一つのチャンスと捉えて、地域の方々を取り込んだ教育活動を行える体制が、更に強まることを期待して意見としました。

#### 安崎総務企画課長

これまで地域からいろいろなご支援をいただいているところですが、コミュニティ・スクールの導入を契機に、これまで以上に地域一体の学校運営を行うとともに、学校地域支援本部の活動を更に活性化する取組が必要であると考えております。

厚田のコミュニティ・スクールに関しては、ふるさと学習の意識が強く、地域にご協力いただいている、今回の学校統合では厚田、望来、聚富の3地区が一緒になりますので、3地区の力をどのように融合して小中一貫教育に結び付けていけるかということが、鍵になると思います。

#### 向田委員

中学校部活動種目の減少が加速し、団体競技は特に厳しい状況となっていて、石狩市でも合同チームを作るなどで対応している状況だと思います。生徒数の減少だけでなく、働き方改革の影響もあり、更に競技の数が減っていく可能性があるのではないかと感じており、学校単位の指導者の問題だけでなく、根本的に石狩市内の中学部活動の見直しを行う必要があるのではないかと思います。中体連との関連もありますので、難しい部分はあるかと思いますが、考えをお聞かせください。

#### 佐々木学校教育課長

現在、ソフトボール(花川中・樽川中)や女子バスケットボール(花川北中・樽川中)など、合同チームを組み練習や中体連等へ出場している部活動もあります。今後の部活動の在り方については、国のガイドラインでは、学校単位から地域単位での活動も視野に入れた体制の構築を求めているところなのですが、教育活動の一つとして学校で取り組んできている部活動ということもあり、地域単位となるにはまだまだ時間を要することだと考えていますので、学校からの要望を聞きながら情報収集してまいります。

#### 向田委員

例えば陸上では、個人単位で記録会にエントリーできるので、地域のクラブチームで指導を受けた子どもが、初回から記録を塗り替えるといった事例もあるので、競技種目の選択の幅が広がることによって、子どもの新たな可能性が見えてくるということはあると感じています。

#### 佐々木学校教育課長

学校教育の一つとして行う部活動と、地域のクラブチームに加入して行う活動とは、指導者の面など違いは生じてきます。働き方改革のなかで部活動のあり方をどのようにしていくかというのは、将来的な検討課題であると認識しています。

**伊井委員長**

「学校力向上に関する総合実践事業」を通して、花川地区そして市内小中学校の連携・成果の普及への取組は、どのように進められていく予定でしょうか。

**山田生涯学習部参事**

今年度、学校力向上として実践している学校は、「学校課題研究会」や「10周年学校周年研究発表会」、「地域連携研修研究会」として石狩市内はもとより石狩管内の教職員を対象として取組成果の普及に努めました。具体的には「授業のあり方」「メンター研修」「地域との連携」「働き方改革の取組」を通して今後も引き続き進めてまいります。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- 魅力ある学校（学級・授業）づくりに資する主体的・実践的・組織的研修意識が醸成されるよう一層の支援を望む。
- コミュニティ・スクールの導入を契機として、地域の学校としての意識をもって地域住民が参画しやすい体制づくりを今後も積極的に推進されるよう望む。
- 学校単位としてだけでなく、地域の課題として石狩市内全体の中学校部活動が持続する方向性を模索するよう望む。

**施策（大項目）4 学校教育を推進する環境の充実**

**【事前に集約した意見】**

No.	委員	意見等
11	鈴木	・ICT機器活用のスキルアップを図るとともに、リスク対策を十分配慮して活用促進を図るよう望みます
12	鈴木	・特に支援を要する子どもや家庭に対しては「子ども総合支援本部」による一層の連携強化を望みます。
13	鈴木	・引き続き食への関心を醸成する取組や地産地消の仕組みづくりの推進を望みます。
14	向田	・ICT環境はじめ、様々な教育環境で石狩市内の学校格差が、なるべく少なくなることを望みます。
15	伊井	・数値上は、教育用PC・タブレットは一定程度整備されてきている状況だと認識しています。加えて、それらが実際に稼働しているかどうかの調査も、指摘されている通り実施されることを望みます。

**鈴木副委員長**

リスク対策でセキュリティの問題が心配されるのではないかとということで、現状と今後の方向性を伺いたいと思い意見としました。

#### 向田委員

ICT環境が整った学校とそうでない学校があると思うので、できるだけ少なくなるように環境整備を進めていただきたいと思います。

#### 伊井委員長

数値上は、教育用PC・タブレットは一定程度整備されてきている状況だと認識していますが、それらの稼働状況の実態はどうなっているかを伺います。

#### 佐々木学校教育課長

No.11については、毎年、教職員向けのセキュリティ研修を実施しつつ、使用するUSBは全て指紋認証のものとし、パソコン等ICT機器導入及び更新の際には、操作研修を行うなど学校においてスムーズな活用ができるように取り組み、その他、外部機関実施の研修情報も通知し、スキルアップを図っています。今後も引き続きセキュリティリスクに配慮しつつ、活用促進を図るよう対応してまいります。

No.14については、それぞれのICT機器等の更新時期に合わせて順次更新しておりますが、格差が広がらないよう注視しながら引き続き対応してまいります。

No.15については、「授業展開に応じて必要な時に「1人1台環境」を可能にする環境の実現」に近づけるために、児童生徒のパソコンを順次タブレット化し、利用可能なシーンを増やすという意味での「稼働率上昇」という表現を使っています。

なお、どれだけPCやタブレット端末が利用されているかの具体的調査については、状況を的確に把握するための調査基準や必要要件、また教職員の負担とならないような調査方法を各校の保有台数増と併せて検討してまいります。

#### 鈴木副委員長

「子ども総合支援本部」では、支援を要する子どもや家庭に対してはきめの細かい対応をされていると思います。より一層の連携強化をお願いしたいと思います。

給食については、引き続き食への関心を醸成する取組や地産地消の仕組みづくりの推進をお願いしたいと思います。

#### 開発教育支援センター長

No.12については、生活面や学習面などで困り感を持つ子どもや家庭に対する支援策の構築を、本部会議で検討し進めております。また、福祉と教育の「庁内チーム」で丁寧な対応に努めており、引き続き連携・協調関係のもと取り組んでまいります。

#### 近藤学校給食センター長

No.13については、地元産の旬の食材を献立に取り入れることで、子どもたちが地域のことを学ぶ機会にするとともに、地域の生産者と連携し、できる限り多くの地元産食



材の使用に努めます。仕組みづくりとしましては、地元JAの協力により、まずは使える食材を教えてもらい、それを献立に取り入れることで、確実に地元食材を使用するというのを徹底してまいります。また、JA以外の納入業者については、地元食材を優先することを周知することで使用を増やしてまいります。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

No.15については、全体を通しての意見に含めることとする。

- ICT機器活用の教職員のスキルアップを図るとともに、情報セキュリティを含むリスク対策に十分配慮することを望む。
- ICT環境をはじめ、様々な教育環境で石狩市内の学校格差が、なるべく小さくなることを望む。
- 支援を要する子どもや家庭に対しては「子ども総合支援本部」と福祉と教育の「庁内チーム」による一層の連携強化を通じた対応を望む。
- 食への関心を醸成する取組や地産地消の仕組みづくりの継続的な推進を望む。

**【重点テーマ2 思いやりと豊かな心・健やかな体を育む教育】**

**施策（大項目）1 豊かな人間性と感性を育む教育の推進**

**【事前に集約した意見】**

No.	委員	意見等
16	鈴木	・豊かな感性を育むために、全ての子どもたちに多様なジャンルの活動（文化・芸術・スポーツ）に触れ、体験できる機会の充実を望みます。
17	鈴木	・図書館司書と学校司書の連携強化等、現行の諸活動を充実させ、読書意識のすそ野を広げる活動を期待します。
18	鈴木	・早期発見（予兆の把握）と共通認識に基づく迅速な対応、当事者に寄り添う支援の強化を望みます
19	向田	・パートナースクールの取組はとても良い事業と思いますが、双葉小学校と望来小学校で実施されなかった理由は？
20	向田	・問題を抱える児童生徒とその保護者の支援はとても大切で、難しい事業だと思いますが、これからも適切な対応と信頼関係の構築をお願いいたします。
21	伊井	・いじめの認知件数（1,011件）が小学校で大幅に上昇した理由をどのように捉えられているのでしょうか。

**鈴木副委員長**

豊かな感性を育むためには、いろいろなことに触れることが大事だと思います。多様なジャンルの活動（文化・芸術・スポーツ）に接して、自分のやりたいものを見つけていくことができる機会を多く作っていただきたいと思いますという意見としました。

**伊藤社会教育課長**

No.16 については、現在「情操教育プログラム」として、中学生向けのジャズの生演奏を聴く「The ミュージック」、小学1年生への俳優による大型絵本の読み聞かせを行う「おしゃべらんど」、小学生向けの「あい風コンサート」を行っており、今後も引き続き実施します。来年度は、昨年度まで旧札幌広域圏組合で実施していた「音楽鑑賞」の実施を検討するなど更なる充実を図ってまいります。

#### 鈴木副委員長

図書館司書と学校司書の連携を深める取組は現在もなされているとは思いますが、更に充実させて、読書意識のすそ野を広げて欲しいと思いい見としました。

#### 東市民図書館長

No.17 については、本館勤務経験者を学校司書として配置することで、学校図書館と市民図書館の緊密な連携が図られており、特に授業支援では、授業で使用する図書や特集展示で使用する図書等を本館から取り寄せることや、レファレンスの補助などで効果が表れています。また、本館を会場に全ての司書が集まって定期的に「学校司書連絡会議」を開催し情報共有をしており、その他の研修等も行っております。今後とも継続して行い、児童生徒の読書意欲を促進するように取組を進めてまいります。

#### 鈴木副委員長

早期発見（予兆の把握）と関係者の共通認識に基づく迅速な対応や、当事者に寄り添う支援の更なる強化が必要だと思いい見としました。

#### 向田委員

問題を抱える児童生徒とその保護者の支援はとても大切で、難しい事業だと思えます。全国でも悲しい事件が多く報じられていますが、石狩市ではそういうことが起こらないように、これからも適切な対応と信頼関係の構築をお願いしたいと思っております。

#### 伊井委員長

いじめの認知件数（1,011件）が小学校で大幅に上昇した理由をどのように捉えられているのかお聞かせください。

#### 開発教育支援センター長

No.18 については、いじめや不登校など問題行動の早期の発見と対応のためスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが各学校を訪問し、学校と情報を共有して早期解消に向け支援策の構築にあたっており、引き続き取り組んでまいります。

No.20 については、児童生徒と保護者の様々な悩みや困りごとの解消に向け、学校とともにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの知見を活かしながら、相談内容に真摯に向き合い丁寧な対応と支援に引き続き努めてまいります。

No.21 については、いじめアンケートで「嫌な思いをしたことがある」と答えたもの

を全て認知することにしたことから認知件数は大幅増になりました。いじめの深刻化を抑止する観点から児童生徒本人が嫌な思いをしたことに学校が寄り添い、早期解消に努めており、小さな事案であってもいじめの解決に向け教職員一人で抱え込むことなく、学校組織として取り組んでいくことがいじめ防止につながるものと考えております。

#### 向田委員

パートナースクールの取組はとても良い事業と思いますが、双葉小学校と望来小学校で実施されなかった理由をお聞きします。

#### 山田生涯学習部参事

平成 30 年度は望来小学校が閉校することに伴い運動会、学芸会、閉校記念式典などの閉校関連行事への対応に時間が割かれたため、双葉小学校との十分な活動時間の確保及び日程、交流に向けての教師間の打合せ、双方児童らによる諸準備等の時間を確保できず、2校で協議したうえで実施を見送りました。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- 豊かな感性を育むために、全ての子どもたちに多様なジャンルの活動（文化・芸術・スポーツ）に触れ、体験できる機会の充実を望む。
- 図書館司書と学校司書の連携の強化等、現行の諸活動を充実させ、子どもたちの読書意識のすそ野を拡げる活動を期待する。
- スクールソーシャルワーカーなどの専門家と連携し、いじめや不登校の早期発見（予兆の把握）と共通認識にもとづく迅速・丁寧な対応、保護者を含む当事者に寄り添う支援の強化を望む。

### 施策（大項目）2 心身の健やかな成長を促す教育の推進

【事前に集約した意見】

No.	委員	意見等
22	鈴木	・遊び（運動）の楽しさを知り継続できる環境の中で、危険回避能力や健康を学ぶことができるよう引き続き支援を望みます。
23	鈴木	・親子で参加できる、親子の絆を強める活動の機会を多くするなど取組を望みます。
24	向田	・石狩市総合型地域スポーツクラブとして、子どもたちが気軽にスポーツに関われるACTタイムという教室を月曜日と金曜日に設定しています。どちらも、開始当初から比べて利用人数が倍以上に増加しています。特に、金曜日は、親や大人が本気で子どもたちと対戦するために、3倍に増えています。やはり、子どもたちだけではなく大人と一緒に係ることで、子どもたちも真剣に向き合う傾向にあります。
25	伊井	・生活リズムの適正化は、小中学生にとって非常に重要です。ぜひ、チェックシートの活用を推進し、その成果が出ることを望みます。

#### 鈴木副委員長

遊びを通して運動の楽しさを知り、危険回避能力や健康を学ぶことができるようにそういった機会を増やす取組を進めていただきたいと思います。

#### 安崎総務企画課長

No.22 については、学校での体育授業及び体育的活動の充実を図り、運動を好きになってもらえるような取組を進めております。地域においては、公園などを利用した子どもの居場所づくりのなかで、運動の奨励にもつながるといった観点から、花川南8条にある彩林公園で土曜日に北海道大学と藤女子大学の学生サークルの皆さんが子どもたちと遊ぶという活動を1年通してされており、小学校低学年が平均で20名くらい集まっております。引き続き、市長部局と連携しながら取り組み、更に拡大していけるかを検討していきます。

#### 鈴木副委員長

ボランティアに頼らざるを得ないところですが、お金をかけてでも指導者がいる状況で遊べる場を作ることが求められている時代だと思いますので、是非そうなって欲しいと願っています。

次の意見については、親子で参加し、絆を強める活動の機会を作ることが求められていると思うので意見としました。

#### 向田委員

石狩市総合型地域スポーツクラブとして、子どもたちが気軽にスポーツに関われるACTタイムという教室を月曜日と金曜日に設定しています。どちらも、開始当初から比べて利用人数が倍以上に増加しています。特に、金曜日は、親や大人が本気で子どもたちと対戦することが好評で3倍に増えていて、親子で一緒にスポーツをすることで普段の生活では見えていなかった子どもの新たな特徴の発見や、子どもたちも親の違った一面を見ることができるなどの相乗効果があり、子どもたちの成長にも繋がると思います。

#### 伊藤社会教育課長

No.23・24 については、ある統計によると、家族で過ごす時間が減っている家庭が増えていくという状況がみられ、ワークライフ・バランスを社会全体で推進していくことが求められています。社会教育課としては、市P連などと連携をして、親子の絆を強める家庭教育を推進してまいります。更に、スポーツや子どもに関する施策を実施している市長部局と連携し、親子でも楽しめる機会の充実を図ります。

#### 伊井委員長

多様な家庭のあり方があるので、親子以外でも楽しめるような取組も合わせてご検討いただきたいと思います。

次の私の意見ですが、生活リズムチェックシートを今後どのように活用し成果に繋がっていくかの考えをお聞きします。

**伊藤社会教育課長**

No.25 については、市P連と共同で作成した生活リズムチェックシートを各学校から各家庭に配布し、結果については各学校が取りまとめ、生活指導に活用されており、今後も引き続き事業を実施してまいります。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- 遊び(運動)の楽しさを知ることができる環境の中で、危険回避能力や健康を学ぶことができるよう引き続き支援を望む。
- 親子で参加でき、親子の絆を強める活動の機会を多くするなど、子どもも大人も真剣に向き合え、楽しめる取組の企画・実施を望む。
- 生活リズムチェックシートの一層の活用を推進し、その成果を学校での生活指導に効果的に活用されることを望む。

**【重点テーマ3 地域で育ち・学び・生きる教育】**

**施策(大項目) 1 次代を担う子どもたちの健やかな育ちの支援**

【事前に集約した意見】

No.	委員	意見等
26	鈴木	・「児童の権利に関する条約」についての再学習を通し共通理解を図り、深刻化する諸問題には関係機関の連携を密にして取組まれるよう望みます。
27	伊井	・子ども110番や見守り活動の実施体制で、市内各所で格差はあるのでしょうか？防犯機能は実証されているようですので、未実施の地域がないようチェック機能があるべきかと思えます。

**鈴木副委員長**

「児童の権利に関する条約」について、改めて学習することで子どもの命を大切にするという共通理解を深めていくことが必要なのではないかと思い、敢えて「再学習」という言葉を遣いました。深刻化する諸問題には関係機関の連携を密にして取組んで欲しいと思います。

**佐々木学校教育課長**

No.26 については、子どもへの暴力防止プログラム(CAPプログラム)を取り組んでおり、小学校3年生を中心に、いじめや虐待、不審者等への対応などで、守られるだけではなく自らが声を上げることができるような体験プログラムを学校で展開しています。更に保護者や教員に対しても定期的に大人向けのワークショップを実施しております。深刻化する諸問題に関しては、学校だけではなく各関係機関との連携が重要となりますので連携を密にしながら機動的に進めていくことが重要であると考えております。

**伊井委員長**

子ども 110 番や見守り活動の実施体制で、市内各所で格差はあるのでしょうか？

**開発教育支援センター長**

No.27 については、子ども 110 番の家の登録状況を確認すると、どのエリアも一般家庭からの登録が大半を占めているほか、見守り活動は教職員やPTA、町内会で組織する体制がどのエリアでも確立されています。子どもを見守る視点において、地域をあげて取り組む体制の構築は重要ですので、学校や市長部局と連携・協議してまいります。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

○人権意識等に関する共通理解を図り、深刻化する諸問題には関係機関の連携を密にして取り組まれることを望む。

**施策（大項目）2 地域づくりに活かされる生涯学習環境の充実**

**【事前に集約した意見】**

No.	委員	意見等
28	鈴木	・現行の各種活動への支援を継続発展させるとともに、参加していない市民に対しては、まちづくりへの参加意欲を喚起する新たな場を提供するなどの取組を期待します。
29	向田	・施策（大項目）2 心身の健やかな成長を促す教育の推進でも述べましたが、金曜のACTタイムは昨年より学び交流センター体育館を利用させていただいております。今年度は、バレーボール、バドミントン、陸上、タグラグビーなどの種目も増え、確実に参加人数も増加しています。学び交流センター体育館が確実に居場所作りの一つとして有効活用させていただいております。
30	伊井	・ユネスコスクールやユネスコ協会を核として、市内全体でESD（持続可能な開発のための教育）の視点を意識した教育を是非、今後とも推進していただきたい。

**鈴木副委員長**

参加していない市民に対して、どうすれば参加意識を高めることができるか、自分の意見がまちづくりに生かされていると実感できる場を設定していくことが大事で、そのための工夫が必要であると思い意見としました。

**向田委員**

学び交流センター体育館と今年度からはグラウンドも使用させていただいております。今年度は、バレーボール、バドミントン、陸上、タグラグビーなどの種目も増え、確実に参加人数も増加しています。学び交流センター体育館が確実に居場所作りの一つとして有効活用させていただいておりますので、今後もこういった施設を市民活動の場としてご提供いただけたらと思います。

**伊藤社会教育課長**

No.28・29 については、生涯学習の場、まちづくりへの参加意欲を喚起するような学びの場というのは、現在実施している「いしかり市民カレッジ」の最終的な目標とするところであると思っています。目標に向かうためには、昨年で発足から10周年となりました「いしかり市民カレッジ」の活動を中心的に担われている運営ボランティアの拡大を支援していくことが重要であると考えております。更に、様々な学習ニーズに対応できるよう社会教育施設の整備の環境維持にも努めてまいります。

**伊井委員長**

ユネスコスクールやユネスコ協会を核として、市内全体でE S D (持続可能な開発のための教育) の視点を意識した教育を是非、今後とも推進していただきたいと思ひます。

**山田生涯学習部参事**

No.30 については、新学習指導要領の総則、各教科等にも、E S Dにつながる「持続可能な社会の創り手」という表現がなされていることから継続して推進してまいります。実践例としましては、SDG, s について校内研究に位置付けている学校がありますし、校舎内で掲示して啓発している学校もあります。また、ユネスコスクール認定校に指定されて取り組んでいる学校もあります。市内全体でE S Dの視点を意識するように促してまいりたいと思ひます。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- 現行の各種活動への支援を継続発展させるとともに、参加していない市民に対しては、まちづくりへの参加意欲を喚起する新たな場を提供するなどの取組を期待する。
- ユネスコスクールやユネスコ協会を核として、市内全体でE S D (持続可能な開発のための教育) の視点を意識した教育が今後も推進されることを望む。

**施策(大項目) 3 学習の拠点としての図書館サービスの充実**

【事前に集約した意見】

No.	委員	意見等
31	鈴木	・市民図書館の機能や現行のサービス(活動)を広く市民に知ってもらうための情報発信を継続されるとともに、「出張貸出」や「移動図書館」などの検討を望みます
32	向田	・図書館でwi-fiが使用できるのは、とても便利でうれしいです。
33	伊井	・書籍などの貸し出し件数の減と、それに伴う利用者数の減少は活字以外の情報媒体が普及する現在、時代の流れとも言えます。昨年も申し上げましたが、「書籍」を媒体にした図書館利用以外の利用方法も見据えた取組も視野に入れることが必要になるのではないのでしょうか。

**鈴木副委員長**

市民図書館の機能や現行のサービス（活動）を広く市民に知ってもらうための情報発信を継続されるとともに、「出張貸出」や「移動図書館」などの検討して欲しいと思ひ意見しました。

**向田委員**

図書館でwi-fiが使用できるで、打合せで利用するときや、来館している学生などもwi-fiを利用して学習している姿が見られるので、とても便利だと思います。使えるということをPRしたいと思います。

**伊井委員長**

書籍などの貸し出し件数の減と、それに伴う利用者数の減少は活字以外の情報媒体が普及する現在、時代の流れとも言えます。昨年も申し上げましたが、「書籍」を媒体にした図書館利用以外の利用方法も見据えた取組も視野に入れることが必要になるのではないのでしょうか。

**東市民図書館長**

No.31については、各種サービスを分かりやすくまとめたチラシ等の配布・周知など、効果的な発信に努めます。また、「就学時健診会場」や「石狩手話フェスタ」での図書等の展示・出張貸出を継続します。「移動図書館」についてはたくさんの人的、物的資源が必要と見込まれるため、他館の状況調査を進めつつ、まずは分館等を拠点としたサービスの充実について検討してまいります。

No.32については、多くの市民にご利用いただけるように、PRをしっかりと行ってまいりたいと思ひます。

No.33については、平成29年度実施の図書館アンケートでは、図書館に行く理由として、「本を借りる、読む」以外に「調べもの」や「イベントの参加」「喫茶コーナー、野菜の購入」などさまざまな目的があることが確認できました。

令和2年からスタートする新たな図書館ビジョンにおいて、「図書館のなかにまちをつくる」というコンセプトを持つ当館が更に多くの市民に利用されるよう取組について検討してまいります。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- 市民図書館の機能や現行のサービス（活動）を広く市民に知ってもらうための情報発信を継続されるとともに、「出張貸出」などの一層の充実を望む。
- 「図書館のなかにまちをつくる」というコンセプトをもとに、「書籍」を媒体にした図書館利用以外の利用方法も見据えた取組を期待する。



## 施策（大項目） 4 石狩文化の活用による自主的・主体的活動の支援

### 【事前に集約した意見】

No.	委員	意見等
34	鈴木	・市民が質の高い芸術文化に親しみ活動意欲を喚起するために、関係機関団体が協力して既存施設で可能な芸術文化招聘事業への取組を期待します。
35	伊井	・非常に多くの支援を提供されているという印象を持ちました。その一方で、支援の成果・効果も意識する必要があると考えますが、いかがでしょうか。

#### 鈴木副委員長

市民が質の高い芸術文化に親しみ活動意欲を喚起するために、関係機関団体が協力して既存施設で可能な芸術文化招聘事業への取組を期待します。これを石狩に持ってきたかと思われるくらい質の高いものを市民に提供していただけたらなと願いを込めてこの意見としました。

#### 伊井委員長

非常に多くの支援を提供されているという印象を持ちました。その一方で、支援の成果・効果も意識する必要があると考えますが、いかがでしょうか。

#### 伊藤社会教育課長

No.34 については、石狩市文化協会では、さまざまな芸術文化団体による公演等を独自に企画実施しておりますが、よりレベルの高いもののご要望もありましたが、そういったものを招聘していけるように、文化協会への支援を続けてまいります。

また、指標での成果・効果というところについては、すぐに数字で見えてくるものではないという部分もありますが、今後も文化協会や市民文化祭などへの支援を通じて成果や効果が表れるように努めてまいります。実際に指標では表れていない部分での効果というものを現状の取組の中で感じているところです。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

○市民が質の高い芸術文化に親しみ活動意欲を喚起するために、関係機関団体が協力して既存施設で可能な芸術文化招聘事業への取組を期待する。

## 施策（大項目） 5 ふるさとを学び伝える取組の充実

### 【事前に集約した意見】

No.	委員	意見等
36	鈴木	・文化財や歴史・自然遺産等に関する保護・保存整備活動を継続して推進されるとともに、学習資源・観光資源としての視点で活かす取組の充実を望みます。
37	伊井	・ハママシケ陣屋を中心とした、文化遺産の持続可能な活用とは石狩市ではどのように考えているのでしょうか。

#### 鈴木副委員長

文化財や歴史・自然遺産等に関する保護・保存整備活動を継続して推進されるとともに、学習資源・観光資源としての視点で活かす取組の充実を意見としました。今ある資源を学習と観光の両面でしっかりと活用していただきたいと思います。

#### 伊井委員長

ハママシケ陣屋を中心とした、文化遺産の持続可能な活用とは石狩市ではどのように考えているのでしょうか。

#### 工藤文化財課長

No.37 については、持続可能な活用にあたっては、まだ明確な手法をもっている段階ではなく、ハママシケ陣屋のある浜益地区では、少子高齢化、人口減少という課題を抱えており、そういった地域が文化財を後世に伝えていくためには、地域での文化財保護に対する優先順位を上げていくことが大切になります。地域の文化財を保護してこうと活動していただいている団体と連携し、国や道の協力も得ながら、どのような手法があるのかを検討をしているところです。

優先順位を上げる手法の一つとしては、鈴木委員のNo.36 のご意見にあるような観光資源としての活用があります。学校や郷土研究会との連携を充実させ、学習や観光の資源として文化財を活用していけるように調査研究を進めてまいります。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

○文化財や歴史・自然遺産等に関する保護・保存整備活動を継続して推進されるとともに、学習資源・観光資源などの視点で活かす取組の充実を望む。

## 施策全体

### 伊井委員長

項目としては以上となりますが、委員の方から最後に全てを総括して何かご意見等ありますでしょうか？

私から、これからプランを改定されると伺っておりますが、その際にはより実態にあった指標の設定をしていただき、この点検評価が実際の取組に更に活かされるものになることを期待します。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

○今後の教育プランの作成にあたっては、より実態にあった指標の設定を望む。

### 古屋総務企画課主査

本日の審議につきましては、まず、本日いただいたご意見の最終的な確認として、事務局でまとめたものを各委員へメールし、了承を得たものを議事録として報告させていただきます。また、点検評価報告書につきましては、本日まとめられた意見を掲載して、今月の教育委員会会議に諮った後に最終決定とし、議会提出及び市民への公表をしたいと思っております。

以上を持ちまして、令和元年度石狩市教育委員会外部評価委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

(17:00 終了)

令和元年10月30日会議録確定

石狩市教育委員会外部評価委員会

委員長 伊井 義人

